

平成19年度第4回北九州市立図書館協議会 議事録

1 会議名

平成19年度第4回北九州市立図書館協議会

2 議題

- (1) 平成20年度事業計画について
- (2) 平成20年度予算について
- (3) これからの図書館のあり方について
 - ① これまでの検討小委員会の会議内容について
 - ② 2月議会における質疑応答
 - ③ これからの図書館のあり方についての意見交換

3 開催日時

平成20年3月28日(金)
14時00分～15時00分

4 開催場所

北九州市立中央図書館内
視聴覚センター第2会議室

5 出席者氏名

(1) 委員(棚次会長以下12名、欠席委員5名)

北九州市立大学学術情報総合センター長	棚次 奎介	会長
北九州市学校図書館協議会会長	吉田 幸雄	副会長
北九州市学校図書館協議会委員	勝山 優子	委員
(社)北九州市私立幼稚園連盟理事	有益 節子	委員
北九州市婦人団体協議会理事	浜崎 いつ子	委員
北九州市A V Eの会副会長	長谷川 英代	委員
北九州市社会教育委員	服部 多恵子	委員
BUCH北九州 絵本とおはなしの会	高井 眞紀子	委員
北九州児童文化連盟理事	佐山 幸子	委員
成人読書会「四季」副会長	高畠 登美子	委員
(社)北九州市医師会理事	小金丸 史隆	委員
(社)北九州市青年会議所副理事長	福嶋 真一	委員

(2) 事務局（西岡中央館長以下13名）

中央図書館長	西岡 幸則
中央図書館副館長	熊埜御堂 義明
中央図書館庶務課長	井上 好二
中央図書館奉仕課長	山本 達臣
中央図書館庶務課庶務係長	河野 吉彦
中央図書館庶務課資料係長	永井 雄作
中央図書館奉仕課奉仕係長	豊田 善正
視聴覚センター長	上田 誠
中央図書館庶務課	山本 清貴
教育委員会生涯学習部長	林田 勉
教育委員会生涯学習課長	黒野 まゆみ
教育委員会生涯学習課管理係長	三瀬 茂弘
教育委員会生涯学習課管理係	舛田 覚

6 一部非公開の理由

議題3の③の「これからの図書館のあり方についての意見交換」は、委員相互の自由闊達、忌憚のない意見交換を行うため、「附属機関の会議の公開に関する要綱」第3条第3項の規定により、非公開とする。しかし、後日、要旨をホームページで公開する。

7 傍聴者 1名

8 会議次第

(1) 開会

(2) 中央図書館長挨拶

(3) 議 事

①平成20年度事業計画について

②平成20年度予算について

③これからの図書館のあり方について

ア これまでの検討小委員会の会議内容について

イ 2月議会における質疑応答

ウ これからの図書館のあり方についての意見交換

(4) 閉会

9 会議経過（発言内容要旨）

(1) 平成20年度事業計画および予算について

(事務局)

① 図書館行事

講演会、おはなし会、成人読書会、親子読書会、図書リサイクル、第34回読書感想文募集、ボランティア養成講座、読書ボランティア派遣、学校貸出図書セット

② 視聴覚センター

子ども映画会、クラシック・レコード・コンサート、週末映画会、初級ビデオ研修講座、パソコン・ビデオ編集講座、16ミリ映写機操作技術講習会、市民ビデオ撮影・編集講座、初歩からのデジタルカメラ活用講座、手作り影絵作成講座、英会話入門講座

③ 平成20年度予算

(図書館)

図書購入、学術情報センター図書購入、図書館管理運営、各種行事、複写サービス、図書館維持補修経費、電算化関係経費、ブックスタート事業経費、中央図書館窓口業務等委託経費、指定管理者が管理運営するための経費、図書館バリアフリーに伴う経費

(視聴覚センター)

視聴覚教材整備費、研修等各種行事経費、その他管理運営費

を説明。

(委員)

16ミリの貸し出し実績はあるのか。

(事務局)

年間、約600～700本の貸出しを行っている。

(委員)

DVD等の貸出しについてはどうか。

(事務局)

ビデオは年間約3,000本、DVDは所蔵本数が少ないので、年間約

200本を貸出している。

(委員)

映画会は、ここにある映画フィルムを使っているのか。著作権の関係はどうなっているのか。

(事務局)

著作権法上、保護制限期間が70年に延長されたため、以前に比べ上映できる本数は限られている。現在はなるべく上映権付きのものを購入して上映したり、70年経過した名作を上映するようにしている。

(2) これからの図書館のあり方について

(事務局)

① これまでの検討小委員会の会議内容について

② 2月議会における質疑応答

配布資料に基づき説明。

③ これからの図書館のあり方についての意見交換

(委員)

若園小学校の図書館の改造は、どういうコンセプトに基づいて行われたのか。

(委員)

学校施設のグレードアップ事業として実施され、木のぬくもりが感じられ、子どもたちが利用しやすいような学校図書館に改造されている。

(委員)

木のぬくもりが感じられ、子どもたちが利用しやすくするための条件として、どういう点を重視したのか。

(委員)

例えば、本棚は本の表紙が見えるようになっていて、子どもたちが手に取りやすいような高さで配置されている。学校図書館特有の配置だと思う。

(委員)

図書館利用についての教育も必要だと思う。

若園小学校では長い間の読書指導により、子どもたちの図書館に対する利用の仕方が培われ、利用したくなるという効果が出てきたのだと思う。

施設にお金をかけずに今の施設のまま使いやすくするには、どの点を重視したらいいのか。長い間の読書指導により図書館を利用したくなるという効果があったということも考えられるのではないか。

(委員)

学校図書館の改造後、図書館に来る子どもたちの人数や子どもたちが読む本の量が増えたが、一番変わったのは、図書館でボランティアとして働きたいという発想が保護者から出てきたことである。

(会長)

新しいものを建てるということになると、その図書館が持つべきイメージをしっかりと組み込むことができる。若松図書館や水巻図書館のように、外に向かって開かれ、ゆったりしているというイメージの図書館は、ネット上で読みたい本を探すまでもなく、その場で本を手にとって読んでみたいという気分が醸成されてくる。何をどう重点化するかは、建築の段階で取り込む必要があるが、そうした考え方は、非常に大切と思う。

(委員)

お金をかけずに今の図書館を利用しやすくするにはどうしたらよいか。

古い建物を活かすことを考えるのであれば、図書館のコンセプトを決めた上で、リフォームや整理の仕方をどうするか、一般からのアイデアを募集したらどうか。

(会長)

水巻図書館では、バックグラウンドミュージックが流れており、違和感なく落ち着いた雰囲気を作り出していた。また、書棚の表示が非常に分かりやすく、どこに行けば自分の読みたい本があるのか、簡潔に整備されていると思う。

市の図書館は少し古くなってはいるものの、工夫次第でもっと利用しやすくなると思われる。例えばそのための意見や提案を広く募集するなどを見てはどうだろうか。

(委員)

既存の施設を活用して本を見る機会を増やしていくのか、あるいは分館をつくるとか、中央図書館自体を建替えるとか、そういうところまで話を広げてい

くのか。また、本に触れることを目的にするのか、あるいは中央図書館についてインターネットを併用し、情報集積基地のようにしていくのか。

インターネットを併用していくのであれば、今の財政状況等を考えると分館をつくっていくというのは現実的ではないのではないかと思う。

前回も空間を提供したらどうかという意見があったが、では既存の設備なのか新しいものなのか、この会がどこまで検討していくのか。

(会長)

既存の図書館に関しても、よりよい図書館にするための検討は行っていくが、配置をどうするかということが大きなテーマになっているので、分館、地区館というスタイルを継続するかどうかということも含めて、今後の検討課題である。

今の図書館をどう配置するかについては、全てを新しくするなどの理想像を描いても実現するわけでもないので、サービス面と併せて、両面から検討したいと思う。

(委員)

大きく立派なものを数箇所つくるのではなく、分館のように近くで本を読めるところも残しておいてほしい。本を通じての語らいの場が持てたらいいと思う。

(委員)

前回平成14年に出された図書館のあり方についての答申の中で、子どもの読書活動を推進するという項目について、実施されている、効果が出ているという報告があった。学校で保護者が実施している読み聞かせについては、その中に含まれていなかったが、とても素晴らしいことであると思う。各学校では、保護者から声があがって実施している状態ではないかと思うが、実態はどうか。

(委員)

学校からも働きかけている。

(委員)

8年くらい前、自分が保護者だった当時の小学校では、保護者が読み聞かせをやりたいと言うと、「時間が取れたらやってもらってもいい」というようなスタンスだった。その後、学校側がだんだん積極的になり、参加者が増え、実施する学校も増えているが、やはり運営主体はお母さん方や地域のボランティアの方で、その世話役の人がいなくなると終わってしまう学校もある状態である。

今回初めて5年生のクラスで感想を書いてもらったので、それを読んでみると、図書室に足を運ぶきっかけになったとか、本が好きになったとか、心がすっきりして集中力がつくとか、子どもたちに効果があることがわかった。

したがって、今後の計画には、学校での読み聞かせを応援するような視点を入れてもらえたらと思う。

実際読み聞かせを行っている母親や、やってみたいと思っている母親に聞いてみたところ、まず学校側の対応として、積極的に応援しているという姿勢を示していただきたいということと、読み聞かせのための講座については、中央図書館でも実施されているが、1回だけのコースの創設や読み方の工夫を教えるなど、回数や内容の工夫をしていただきたいという声があった。講座の開催場所についても、中央図書館だけでなく、学校単位など身近な所で開催されたらいいなという声があった。

学校図書館については、本の選定も学校で行ってもらえたらとか、昼休みのお話し会のときに人形劇等を実施するための道具を貸出してもらえたらという声があった。

(委員)

中央図書館や分館からも、学校図書館へ読み聞かせに行っており、大型絵本等を所蔵し、貸出しも行っている。相談に行かれてはどうか。

(会長)

今後、小委員会で審議する項目を整理する必要があるが、まず、アンケートをどのようなかたちで実施するかを検討していきたい。